

出前講座 奈良市 ^{みあと}都跡小記録

環境について考える

期 日 平成 14 年 6 月 20 日
場 所 奈良市立都跡小学校 体育館
対 象 5 年生 4 クラス全員



奈良市 平城宮跡（奈良時代前期の朝堂院跡から南、朱雀門を望む）
朱雀門は、都跡小の北東 900m のところにあります。

奈良県ストップ温暖化推進員
（磯 三男・川西 勸・福岡 進で実施）

1. はじめに

科学技術の進歩は、私達に豊かな社会を創りました。

しかし一方で、産業の巨大化、大量生産・大量消費、大量廃棄の社会を創り出してしまいました。

私達が気付いたときは、資源を大量に消費する社会となり、地球の環境に負荷を与える社会システムが定着してしまいました。

地球の環境に負荷を与えるようになり、私達の生活にも影響をおよぼしはじめ、いわゆる環境問題として取上げられる様になりました。

水問題

ごみ問題

酸性雨問題

オゾン層破壊問題

地球温暖化問題

など、環境問題が発生しています。

これらの環境問題について、どの様にして起っているのか、私達の環境にどのような影響を及ぼしているのか、現状の姿を掴み、どの様にして解決を計って行くか、私達の生活の仕方について見直しが求められています。

奈良市都跡小学校5年生4クラスのみなさんに、現在の環境問題について話す機会を戴きました。

講師3人による講堂での授業には、みんなが熱心に聞いて、一生懸命にメモも取っていました。

最後の質問時間には、活発に率直な質問が多く出て、環境問題に対する関心の高まりを強く感じました。

出前講座のプログラム

1) 講師紹介	5分
2) ごみ問題	15分
3) 地球温暖化問題	25分
4) 休み時間	10分
5) 酸性雨・オゾン層問題	15分
6) 水問題	15分
7) 質疑応答	15分

2. 出前講座

1) ごみ問題

川西 講師

家庭からでるごみを焼却して減量化していますが、このごみの処理に困っています。

私たちは、ひとり一日にごみを1kg出します。生活を工夫してごみを出さないようにしましょう。



2) 地球温暖化問題

磯 講師



大気中の温室効果ガス濃度が急激に増加しているため、熱を吸収して地球を温室のようにし、地球の温暖化を進めています。

温室効果ガスの増加を抑えるため、省エネルギーにつとめ、ものを大切に、リサイクルできる製品を選びましょう。また植物は光合成作用で大気中の温室効果ガスを吸収しますので、植物を増やし、大切に育てましょう。

3) 酸性雨・オゾン層問題

福岡 講師

酸性雨の原因は自動車の排出ガスや工場から出る排ガスで、植物を枯らします。

古い空調機や変圧器の中のガスは、オゾンホールを作ります。紫外線を守るオゾン層を破壊します。



4) 水問題

川西 講師

水を汚せば私たちに帰ってきます、奈良市の水道の水はダムから来ていますよ。ラーメンの汁(ちゃん1杯)を流した場合、魚が棲める水に薄めるには、お風呂の水3.5杯分必要です。魚が棲めるよう、水を汚さないようにしましょう。

3. みなさんからの手紙



講座後に生徒より手紙を戴きました。その一部を紹介致します。

- * このあいだ、大気のごれのことについて説明していただいてありがとうございました。少しむずかしいこともありましたが、一番知らなかったのが、一番分ったと思います。言葉さえ知らなかったのが、意味もわかって、とても、これからは役に立つと思います。私も自転車で、廻っている人や自転車の貸し借りしている所も見ました。そのときは「どうして乗ってまわったり、貸し借りしているのかな」と思いました。でも、話しを聞いて意味が分りました。「みんなかんきょうを守っているのだな」と思いました。

A さん
- * このままの生活を続けると、最高で5度も上がると言うことでとてもびっくりしました。それに、温度が上がり続けると、海面が上昇したり、砂漠化が起ったり、動物や植物の絶滅が起ったりすると教えてくださって、とてもこわくなりました。それで、ぼくも電気、ガス、水などを使いすぎないようにしようと思いました。

B 君
- * 二酸化炭素を吸収してくれる植物がとても大切だと言うことが分りました。これからは温暖化が進まないように努力して行こうと思います。

C さん
- * せっけんや油なども、生き物を苦しめているんだなあと思いました。これからは、みんなに、人間のせいで魚たちが苦しんでいると言うことを伝えたいです。

D さん
- * しろいけむりや車のはいきガスが酸性雨のげんいんになると話して下さいました。私はその話しをきいて、これからは近くにかいものに行くときなどはなるべく車ではなく、歩いて行きたいと思います。

E 君
- * かんきょうを守る3Rの、へらす(リデュース)、さいしょう(リユース)、さいりょう(リサイクル)のことについても教えてくれました。

F 君